

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	臨床化学検査学Ⅱ				
担 当 者	米田孝司				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3	4.1	4.1	3.9	4.2	
学生へのメッセージ					
学生自身の評価について学科平均が 3.6 に対して当科目が 3.0 なので、学生意欲を出させる私の仕組みづくりが出来てなかったのだと思います。国試科目で問題が多い重要な科目なので、自己学修となる宿題を多くした方が良いのかもしれませんが。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2, 3		
科 目 名	栄養学				
担 当 者	米田孝司				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3	4.2	4.1	4	4.2	
学生へのメッセージ					
「間隔をあけて座ると座るところがない時があった」という意見に関して、今年だけは新カリの問題で2年・3年合同であったので狭くて申し訳なかった。漫画説明と語呂合わせが良かったという意見はとても嬉しいですね。次回からもっと増やそうと思いました。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	細胞検査学演習				
担 当 者	布引 佐野 梶山				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	4.5	4.6	4.5	4.7	
学生へのメッセージ					
この科目は多くの細胞診標本を教材として皆さんと供覧しました。また現場でしか得ることができない貴重な資料を提供しました。細胞検査は多くの細胞像をみることによって力がつきます。実力をつけるためたくさんの標本を供覧しました。授業を通じ細胞検査士の仕事のおもしろさ、臨床検査の素晴らしさを感じ取っていただけたら幸いです。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	臨床病理検査学実習Ⅰ				
担 当 者	布引 佐野 梶山 森藤				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4	4	4	4	4,7	
学生へのメッセージ					
皆様のご協力で薄切のケガもなく順調に実習を行えました。実習Ⅰは実習Ⅱに向けて助走をつける授業です。3年生ではより実践的な内容になります。今回身につけた知識を応用し挑んで下さい。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	病理検査学				
担 当 者	布引 佐野 梶山 鳥居				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3	4	3.9	3.7	4.1	
学生へのメッセージ					
この科目の内容はバラエティに富んでおり、皆さんからすればまとまりのないちぐはぐな授業に思えたかもしれません。しかしすべて教科書に記載された内容であり、ローテクからハイテクまでいろいろな技術が集まっているのが「病理検査学」の特徴です。みなさんが臨地実習で体験すれば謎は解けると思います。統一感なかったと思いますがすべて重要な技術ですので頑張ってください。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	解剖組織学				
担 当 者	新谷 路子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.1	4.3	4.1	4.3	
学生へのメッセージ					
授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。 アンケートの自由記載欄には、『ワークシートが役立った』、『プリントの内容をもう少し分かりやすく纏めて欲しかった』という意見がありました。配布資料の内容、分量を見直し、より見やすく頭に入りやすくなるよう工夫を続けていきます。また、必要と思われるものはmanabaにアップし、自己学修に利用していただけるようにしたいと思います。 2年次では、病理学と一般検査学・一般検査学実習でお目にかかります。どの科目も、解剖学の知識が必要とされますので、解剖学を振り返りながら進めていきたいと思います。本講義で使用了教科書「最新臨床検査講座・解剖学」は、200 ページとコンパクトにまとめられており、2 色刷りの図もシンプルで見やすいと思います。今後も時間があるときは、繰り返し読んで下さい。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	一般検査学実習				
担 当 者	新谷 路子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4	4.2	4.1	4.2	4.2	
学生へのメッセージ					
授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。 昨年は自由記載の中に、『実習室後方は機械のモーター音がうるさく、マイクを通して教員の声が聞きとり難かった』というコメントがあり、今年度はスピーカーの位置を変えるなど十分注意をしながら行ったところ、そのようなコメントはなく改良されたかなと安心しています。 前期の一般検査学の講義では、尿検査を身近に感じられなかったかもしれませんが、後期の実習では、ほぼ毎回自己検体（尿または便）を使用することにより、臨床検査とは人を相手にした分析・検査であること、その日によりうまく検体が採取できない、健常人でも結果が変化すること等を実感できたのではないのでしょうか。 尿沈渣実習では、自己尿の成分を顕微鏡で観察したり、マイハンドブックを作成したことで基本的事項の整理ができたと思います。3 年後期に臨地実習に出た際は、このマイハンドブックを大いに利用し、内容を追加していただければ嬉しいです。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科		学 年	3	
科 目 名	生理機能検査学演習				
担 当 者	砂見愛子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.9	4.3	4.2	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
生理機能検査学演習受講の学生の皆様 ＜砂見より＞ 生理機能検査学演習は今まで講義・実習で学んできた生理機能検査学の知識を全て用いて臨床症例を読み取ることを中心として構成しました。 知識の整理ができ、生理機能検査により興味をもってもらえたなら幸いです。 超音波画像について、全てにシェーマを提示できず理解しにくかったとのコメントをありがとうございました。 次年度では正常と異常の違いがわかる画像とシェーマの提示をしたいと思います。 また、本講義が皆さんの国試対策や卒後の臨床で少しでも生かされることを願います。 ＜杉山先生より＞ 1月の生理機能検査学演習定期試験に出題しました肺機能検査と筋電図検査の問題内容と同じものが、2024年2月に実施された第70回国家試験問題に出題されていました。肺機能検査問題は間質性肺炎と肺切除や呼吸筋障害の鑑別にDLco/VAが重要である内容です。筋電図問題は遠位潜時についての質問でした。生理機能検査学演習は生理系授業の総まとめであり、来年の国家試験対策として重要なであることを自覚して、4年生になるまでに生理機能検査学演習の復習と生理機能検査学赤い教科書全頁を一度は読んでおいてください。国試合格を応援しております。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	対人援助技術演習				
担 当 者	江崎ひろみ 今西麻樹子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.6	4.6	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
毎授業ごとのミニツツペーパーへのコメントや本授業評価のおかげで、授業の改善点がわかりました。ありがとうございました。 本科目は M3 後期後半で、臨地実習前の時期での授業でした。臨床検査技師がどのように対象（患者やその家族）へ安心をもたらす安全・安楽な対応をされているのか学ばれることと思います。実際を見聞きして学ぶには、先ずは観る視点が必要となります。本授業で得た基本的な知識を「観る視点」のひとつとしてもらい、自分で観る・気づく・考察する・工夫する・考えを伝える（記述する）ことに活かしてもらいたいと思います。 授業内でミニ体験する中で、対象（患者とその家族）の心理理解を深め、普段気づきにくい危険予測力を醸成するような授業づくりを心掛けました。また、感染対策を取りながら、2～4人程度の少人数で学生相互に意見交換ができる機会を持つこと、授業の振り返りコメントを共有することで他者の意見から考察を深められた方が多くいらっしゃいました。臨床現場で必要となる移乗・移送技術演習については、教員2名体制で、学生の安全を確保しながら基本技術の知識習得を目指しました。検査室など狭小空間での車いす操作は実践的な技術と危険予測の視点が養われたと思います。（江崎・今西）					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	生化学 I				
担 当 者	米田孝司				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.3	4.4	4.4	4.1	4.3	
学生へのメッセージ					
「プリントの解説で次の問題に行くのが少し早い時がありました」というのは確かに感じています。1 年生という事もあり、もう少しゆっくり説明しないといけないと思っています。病院の話しや面白い話しなどが良かったという意見や、学生への優しさが伝わって非常に嬉しいです。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科		学 年	1	
科 目 名	生命科学				
担 当 者	松元英理子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	4.4	4.4	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
1年後期になって、「難しい科目が増えてどうしよう」と思った方は多かったと思います。この時期は、専門科目（検査学）を学ぶために必要不可欠な基礎知識を積み上げていく時期でもあります。 「生命科学」は恐ろしい勢いで進んでいる分野で、テキストの内容もどんどん書き換えられています。また特に授業の後半に学んだ内容は、これから皆さんが専門科目で疾患の成り立ちと診断・治療について理解するうえで重要になってくる部分です。 2年になると専門科目も増えて、今まで以上に授業外学修の重要性が増してきます。「生命科学」でつけた学修習慣をキープして先に進んでいってください。学び続けることで興味もわいてきます。 多くの方からコメントをいただきました。ありがとう。 評価していただいた点は… ・授業中の質問（グーチョキパー&通路からマイク）、これまでの授業の復習スライド、manabaのノート用PDF、動画などです。皆さんの意欲的に勉強しようという意識が伝わってきます。 改善点としては… ・中間テストの答えを公開してほしい。→自分で解いてみて自信のない問題は、是非質問にきてください。正答を公開すると、答え「だけ」を念仏のように丸暗記する人が出てくるので、公開していないのです。 ・教室が暑い。→室温の希望は授業中でも受け付けます。遠慮せずに。 ・教室が狭い。→同感です！ さあ、次は2年後期の「遺伝子・染色体検査学」です。更に難しくなりますが、お互い頑張りましょう。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	遺伝子・染色体検査学				
担 当 者	松元英理子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.5	4.1	4.2	4	4.1	
学生へのメッセージ					
お疲れ様でした。毎回の manaba 小テストに加えて紙ベースの演習課題もあり、講義科目にしては課題が多いなと感じていたと思います。これを乗り越えた皆さんは、きっと遺伝子検査の基本原理はマスターして、新型コロナウイルスの PCR 検査を身近なものに感じられているはず(?) 授業では、最新の遺伝子検査の話題にも触れましたが、重点は基本的な解析原理の理解に置きました。最新の遺伝子検査を理解するためには、基盤となる解析法の徹底的な理解が必要だという考えからです。皆さんが医療の現場で新しい課題に直面した時に要求されるのは、「自分自身の力で調べ・考え・解決する」ことです。医療の専門家として問題解決にあたるとき、解析原理を深く理解したうえで、「考える→参考資料を探す→資料を読む→考える→人に聞く→考える→ディスカッションする→考える…」と、あらゆる手を使って諦めずに前に進めるよう、専門的な知識とともに「考える力」もつけていってください。 手っ取り早く知識を得ることだけを求めている「考える力」は身に付きません。面倒ですが時間をかけて考える経験を積んでいってください。 数名の方からコメントを頂きました。ありがとう。 肯定的な意見としては… ・配布資料への書き込み、スライド (PDF) の manaba での公開、新聞記事紹介などが評価されていました。 改善点としては… ・課題が難しい。→難しいと思います (居直るな!?)。難しい課題を必死で考えることで、社会で使える「考える力」がつくと思うからです。ただし、提出課題をチェックして、理解できていない方が多そうだったので、課題の解説を例年より丁寧にしました。プライマー配列や PCR-RFLP 法は M3 の実習でも扱いますので、続きは M3 で… ・スライドと配布資料の内容が少し違う。→配布資料は、後から読んで知識の整理ができるように少し広い範囲を入れ込んでいます。スライドは、授業で重要な部分を説明するために作成しているので、内容に違いが出ているのではないかと思います。ちなみに、卒業生の中には、					

遺伝子検査の資格をとるために、授業で配布した資料を活用してくれている方もいます。

次は3年前期の「遺伝子・染色体検査学実習」です。実験して→データを出して→「考える」ことの連続です。頑張りましょう！

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	公衆衛生学Ⅱ				
担 当 者	析倉匡文				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.3	4.3	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
感染症対策、介護保険、食中毒、喫煙問題など公衆衛生学は私たちの生活に密接に関わっています。内容が多岐にわたっていたため、事後学修に苦勞したと思いますが、公衆衛生学は実社会で役立つ学問です。日頃から公衆衛生に関する情報に興味を持つようにしましょう。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	公衆衛生学実習				
担 当 者	析倉匡文				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4	4.4	4.4	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
皆さんからの授業評価は概ね良好でした。アルコールパッチ試験では実際に χ^2 検定をしても もらいました。保健統計の良い復習になったと思います。ダニアレルギーテストの測定原理が今 一つ理解できなかったかもしれませんが、2 年生の免疫検査学の授業で詳しく習うので安心し てください。公衆衛生学は日々の暮らしに欠かせない実用的な学問です。日頃から公衆衛生の 情報には興味を持つようにしてください。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	生理機能検査学実習Ⅰ				
担 当 者	浦 みどり				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.3	4.3	4.2	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。全体的に高評価で実習に真剣に取り組んでいただけたことが窺えます。特に「授業以外の学習時間」が他の科目よりも高く、実習の予習やレポートに多くの時間を使っている結果だと思いますし、自分で考えてアウトプットしていくことで、力になっていくので、(記載すべき内容は精査して削ることも考えていきますが) これからもご自身の勉強のために、より良いレポート作成していきましょう。 頂いたコメントで、心電計やエコーが実習中に故障した点について、いずれも当日の急な不具合（または以前からの不具合が高じて他の機能も使えなくなったなど）で、ご迷惑をお掛けしたことは、実習中から何度もお詫びしておりますが、限られた時間の中で、お互いにアドバイスをしながら協力して画像を出すなど、皆さんの努力で終えることが出来ました。超音波装置については只今、より新しく良い機器に変更するための準備を進めていますので、来年度の心エコーの実習の時には、快適に実習が出来るよう努めます。 また、心電計は機器の故障ではなく電極の断線が考えられ、その場で新しい物に交換して問題なく稼働しています。また古い電極は廃棄し、新しい電極も購入、心電計も台数が揃っているので、次回の実習には影響はないと思いますのでご安心ください。お気づきだと思いますが、断線の場合は交流障害や波形が出ないことなどが考えられましたよね。機器トラブルの際には、必ずどこに原因があるのかを予測して調べていく必要があるため、今回トラブルに遭遇した方々は、トラブルに対処する時の考え方やアプローチの仕方も学べたと思います。実際にそのことについてレポートに記載している方もいらっしゃいましたので、貴重な学習の機会になったと思います。もちろん皆さんの大事な実習時間が削られることになったので、今後は不具合が出る前に機種変更が出来るかなども検討してきます。生理機能検査は機械も患者さんも見る必要がありますが、とても面白いので、来年も予習の段階から積極的に取り組んでいきましょう。良い案があれば、その都度実習に取り入れていきたいと思いますので、引き続きご協力をお願いします。(循環器担当：浦) 授業評価に回答いただきありがとうございました。 脳波・筋電図は、前期「生理機能検査学Ⅱ」を履修した上での実習で、レポートには「座学で					

はよくわからなかったが、実習をすることで理解できた」との感想がありました。

座学と実習を並行して実施する方が効果的とは思いますが、ほとんどの科目は座学→実習の流れになっています。

今更ですが、座学では検査に関連する必要な知識を頭に入れ、実習では座学で得た知識はここに繋がるのか！と自分に落とし込むことが大切です。

輸血・移植検査学は前期に座学、後期に実習があります。上記を意識して授業に臨んでみてください。

3年前期は呼吸機能検査と ABR 検査の実習（今西担当分野）です。呼吸機能検査については、後期「生理機能検査学Ⅲ」の検査に関する資料を読み直し、原理を理解した上で実習することをお勧めします。（脳波・筋電図担当：今西）

超音波検査実習は広範囲にわたる実習内容であったため、実習時間内に超音波画像を描出することが難しい方も多かったと思います。

しかし、実習時間を少し超過してでも熱心に超音波画像の描出・理解に取り組まれている姿が多く見られ、大変感心しました。

また、超音波診断装置の不具合により実習がスムーズに進められなかったこともあり、申し訳ありませんでした。

現在、超音波診断装置の更新についても交渉中です。充実した設備で皆さんによりよい実習を行ってもらえるように努めますので、

これからも超音波検査に興味をもって取り組んでもらえたら幸いです。（超音波担当：砂見）

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	臨床検査学演習				
担 当 者	澤村暢				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.4	4.3	4.3	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
この授業では臨地実習前の総復習として知識、技術、検査データの読み方について学んできました。皆さん自身も意欲的にこの授業に取り組んでいただき、その成果も実感していただけているようで安心しました。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	医学検査サプリメント演習Ⅰ				
担 当 者	澤村暢				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4	3.9	3.8	4	4.1	
学生へのメッセージ					
この授業は国家試験対策の一環であり、模擬試験や皆さん自身の勉強時間の確保をメインに行いました。評価結果から授業内容（カテゴリーⅡ、Ⅲ）についてあまり良い評価が得られていませんでした。しかしながら学生自身の意欲や学修時間の確保には役立ったことが見受けられます。今年度でこの授業はなくなりますが、今後の国試対策の参考にさせていただきます。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	臨床化学検査学実習				
担 当 者	林伸英、伊藤洋志、澁谷雪子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.3	4.4	4.4	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
感染対策として十分な換気を心掛けて実習を行いましたが、少し寒かったかもしれません。 A・B グループに分けて①実習に関連する講義②実習の具体的な操作③実際の実習について①と②は遠隔（YouTube）で実施しました。この授業でよいと思った点に「事前に講義、操作手順を視聴することでスムーズに実験に入れることがよかった」「事前に実習の操作や予習ができたことがよかった」と肯定的な意見が複数寄せられ、遠隔とのハイブリッド実習は「自分のペースで」「じっくり」「何度も」「わかりやすい」の点で学生にとってよかったのではないのでしょうか。レポートについては、今年度から雛形（どのポイントについて書けばよいかがわかる）を配付して報告してもらいました。レポートについては「実習中にレポートが書けるし、早く帰れて良かった」「レポート量が多くなく、書くべきことが明確なのでやる気にも繋がりました」と好評価でありました。レポートを書く時間が減っていることは「実習以外にかけている全体の予習時間」は（4.17・授業1回あたりの平均時間は2時間以上・1～2時間が全体の83%）と長いものの、昨年度（4.51・87%）より若干ではありますが短くなり、個々の学生への負担は減っていることからもうかがえました。「(授業内容) 授業の到達目標がシラバスや授業でわかりやすく示された」、「(授業方法) 毎回の授業内容はよくまとまっていて、よく理解できた」の評価が好評価でありました。「(総合評価) この授業を受けて満足している」全体の88%が満足している結果で、この実習の内容や進め方について全体的に良好な評価が得られていました。教員によるレポート評価について「どこも直されていないのにAのマイナスだった」とありましたが、A マイナス評価（最善ではないが良好・もう少し）のレベルで「良い評価」であります。レポート評価は総合的に行っているなので、内容の間違いの指摘がされない場合もあります。学生さんから「たまに言葉の意味が分からない（回収率とか）があったので、もう少し易しく説明して欲しかった」については予習の講義で説明したつもりですが、今後、理解の乏しいことに関してはレポート解説でさらに説明することにします。最後の回で実施したグループワークは、実際の対面でのやり取りや manaba を利用したプロジェクトでのやり取りをうまく活用して学生同士の意見交換がうまくまとめられていたと思います。 遠隔で内容や操作の説明を受け、皆さんが何を実習するのかを把握した後の対面実習であっ					

たため、自分で実験の流れを考え実験を行えたと思います。将来、社会人となり検査、研究をする際に自分で計画し、実行していく力が必要となります。学内実習で学んだことを将来に活かしてください。また、これからも病態を含め、考える姿勢を続けていってください。(澁谷)

学生からの質問内容は単なる操作方法に関するものは少なく、遠隔（動画公開）の効果を感じました。実習の要点に即した質問ができるのは事前学習の努力の成果であり、そのように“用意ができた”状態で受ける助言や指導は理解しやすかったと思います。社会人となり、初めての仕事に取り組む場面でもこのような姿勢で臨み、成長していった欲しいと思います。(伊藤)

皆さんが就職し、実際の検査室で使用するのは自動分析装置です。ブラックボックス化して原理や操作を用手法で実施することは全くないと言ってよいでしょう。この点から原理や基本的な操作を学ぶ実習は本当に大切なのです。レポートはあなた方が頑張った実習した証しです。大切に保存しておきなさい。将来、実習をやってよかったと思える日がきつとくると思います。(林)

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	臨床化学検査学実習Ⅰ				
担 当 者	林伸英、伊藤洋志、澁谷雪子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4	4.1	4.2	4.1	4.2	
学生へのメッセージ					
感染対策として十分な換気を心掛けて実習を行いましたが、少し寒かったかもしれません。 A・B グループに分けて①実習に関連する講義②実習の具体的な操作③実際の実習について①と②は遠隔（YouTube）で実施しました。この授業でよいと思った点に「予習動画があることによって、いつも班の足を引っ張ってしまいがちな私が班で活躍することが出来て嬉しかったです」と遠隔とのハイブリッド実習は「自分のペースで」「じっくり」「何度も」「わかりやすい」の点で学生にとってよかったのではないのでしょうか。レポートについては、今年度から雛形（どのポイントについて書けばよいかがわかる）を配付して報告してもらいました。実習中にレポートが書ける、レポート量が多くなく、早く帰れる、書くべきことが明確なのでやる気にも繋がるとの意見があり好評でありました。実際に「実習以外にかけている全体の学修時間」は例年より減っていて、個々の学生への負担は減らすことができました。 「(学生自身) この授業に意欲的に参加した」全体の 84%、「(実習科目) レポートや課題などのチェックや指導は適切だった」全体の 90%、「(総合評価) この授業を受けて満足している」全体の 82%が満足している結果で、この実習の内容や進め方について全体的に良好な評価が得られていました。 遠隔で内容や操作の説明を受け、皆さんが何を実習するのかを把握した上で対面での実習であったため、自分で実験の流れを考え実験を行うことができたと思います。反面、一部の学生さんからは「だんだん慣れてはきましたが、原理を理解するのが毎回難しかったです」との意見がありました。旧カリでは3年次前期から行う実習を新カリでは2年次後期から始めています。専門の実習をあまり行っていないあなた方にとって難しかったのかもしれません。これに引き続く実習Ⅱでは、理解の乏しいと思われる事項に関してはさらに解説することになります。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科		学 年	2	
科 目 名	検査管理総論				
担 当 者	林伸英				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.2	3.8	3.8	3.8	3.9	
学生へのメッセージ					
以前は、ほとんどの検査部門はトップ（部長）が医師で、現場責任者が臨床検査技師長という組織構成でありました。臨床検査技師が専門技術者であると同時に組織を統括し、マネジメントすることが本来の姿であり、現在このような組織が多くなっています。臨床検査技師として力量を磨かなければならないと思うきっかけが本教科の目的の一つであると考えられます。 一部の学生さんからは「他の授業にも役立つので1年生のうちにやりたかった」との意見がありましたが、旧カリでは3年次前期に行っていた本講義は新カリでは2年次後期になり、専門の講義として先行して組み直されています。本教科は検査室の管理運営、医療安全、精度管理、検査結果の評価、進路等、すべての検査業務に共通する内容を含んでいます。従って、普通の教科のように専門性が見出しにくい内容であり、学生にはわかりにくい部分もあったかと思います。しかし、すべての臨床検査で求められる正確・迅速な検査結果報告のための必要最小限の考え方を網羅しており、卒業生からしばしば、「検査管理総論の重要性が今になってわかりました。」と聞くことがあります。あなた方が社会に出たらこのように感じる時がくることを望んでいます。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科		学 年	3	
科 目 名	BLS キャリアパスⅡ				
担 当 者	澁谷 雪子、伊藤 洋志、浦 みどり、砂見 愛子、佐野 太亮				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.2	4.2	4.4	4.4	4.3	
学生へのメッセージ					
授業は①小論文を作成し、皆さんでチェックをしあう、②将来の仕事内容（病棟、災害、地域・在宅など）について調べ、まとめる、③自己PRを作成する、④面接で必要なことを考え、まとめる という内容でした。 授業評価の結果は、Ⅰ学生自身 3.2、Ⅱ授業内容 4.2、Ⅲ授業方法 4.4、Ⅳ学習成果 4.4、Ⅴ総合評価 4.3 でよい評価でした。設問8「聞きやすい話し方だった」(4.43)、設問14「自分で調べ、考える姿勢が身に着いた」(4.41)、設問10「授業の進行速度が適切だった」(4.39)、設問11「学生の質問や意見への対応が十分なされていた」(4.38) と高評価でした。 なぜ高評価に繋がったのかを考えてみました。将来の仕事内容（病棟、災害、地域・在宅など）について、皆さんが調べ、今の自分に何が必要かを考えるグループワークもあり、将来を考えることで積極的になれ、積極的に取り組んだという自信がついたため、高評価に繋がっているのではないかと考えています。「皆さんの頑張りです。」 コメントも記述していただきました。「就職活動につなげることができた」という意見がありました。あと半月で就職活動が始まり、社会人になっていきます。BLS キャリアパスで考えた社会人（臨床検査技師）として必要なことをもう一度、振り返っておいてください。そして、理想の社会人（臨床検査技師）像に近づいていきましょう！					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	臨床病態学特論				
担 当 者	松田 正文				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.5	5	5	5	5	
学生へのメッセージ					
私の専門領域に関する授業でした。疾病の成り立ちから進展・結末まで学修しました。 その際、合併症の出現もあり、それらを関連付け総合的に考える習慣ができればよいと思います。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	環境生理学				
担 当 者	堀江 修				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
2.9	3.8	3.8	3.7	3.9	
学生へのメッセージ					
授業評価をいただきありがとうございます。授業内容、授業方法、学習の成果、総合評価共に学科平均より 0.2～0.3 ポイント低かったことから、前年度と比較して同等の評価はいただけませんでした。「授業以外に学習した時間」の項目でかなり低い評価であったので、科目自体に興味をもってもらい、この評価を上げるようにすればかなり高評価につながると感じています。カリキュラム変更に伴って当科目の意味が私自身さらに理解できたので、臨床検査技師教育にプラスとなることを大きくアピールして、みなさんに自宅学習の時間を増してもらいたいです。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	血液検査学実習Ⅱ				
担 当 者	堀江 修・澤村 暢				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.2	4.3	4.2	4.4	4.3	
学生へのメッセージ					
課題と実習レポートの内容を明示しレポートの作成や提出をわかりやすくしました。そのため、「レポートや課題などのチェックや指導は適切であった。」という項目以外すべて学科平均を上回りました。以下のとおりです。Ⅰ学生自身（4.2 / 3.6：当科目平均 / 学科平均とする）、Ⅱ授業内容（4.3 / 4.1）およびⅢ授業方法（4.2 / 4.1）、Ⅳ学習成果（4.4 / 4.1）およびⅤ総合評価（4.3 / 4.2）です。実習科目の授業評価で各項目に波及するポイントがひとつあって、それはレポート判読です。レポート判読に高い点が得られると、他の項目が引きずられて授業評価がよくなるのはわかっていますが、他教科との兼ね合いもあって、判読にあまり時間はかけられません。実習の振り返りとなる効果的なレポート判読を今後は心がけたいと思います。今年度のもう一つの特徴は学生自身の学科平均が 3.6 とかなり低い点で、これはどの教科においてもあまり自宅学習に時間をかけていない証拠であり、この点みなさんの奮起をうながしたいところです。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	予防医学概論				
担 当 者	堀江修・堀江宏美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.1	4	4.2	4	4.1	
学生へのメッセージ					
授業評価をいただきありがとうございます。Ⅱ授業内容（4.0 / 4.1：当科目平均 / 学科平均とする）およびⅢ授業方法（4.2 / 4.1）、Ⅳ学習成果（4.0 / 4.1）およびⅤ総合評価（4.1 / 4.2）のように、学科平均とほぼ同等でした。概ねこの調子で授業を続けたいと思います。自由記載欄の表記から、外部講師の授業は予防医学に関することはもちろん、統計学やキャリア形成に繋がる話などとても高評価をいただいたことがわかりました。今後も豊富な経験を踏まえた話をしていただくようにします。「授業以外に学習した時間」の項目の評価が前年度とかわらず低かったので、無理のない範囲で課題を多くする対策を考えています。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	血液検査学Ⅱ				
担 当 者	堀江 修				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3	3.7	3.7	3.6	3.8	
学生へのメッセージ					
授業評価をいただきありがとうございます。Ⅱ授業内容（3.7 / 4.1：当科目平均 / 学科平均とする）およびⅢ授業方法（3.7 / 4.1）、Ⅳ学習成果（3.6 / 4.1）およびⅤ総合評価（3.8 / 4.2）のように、学科平均をかなり下回りました。一つの大きな理由は、自身担当の 7.5 コマ授業である環境生理学と血液検査学Ⅱが同一時間に開講されなかったことにあります。別日に設定されたため、本教科は最終的に 0.5 コマだけ 2 ヶ月先の講義となり、計画的授業とはみなされませんでした。私もこの試みが初めてであったため、随分ととまどいました。授業においては課題等を出題しているものの、解答は学生自身が作成する方法をとっていました。今後は無理のない課題を出題し、解答も作成しながら授業をすすめるようにします。板書・スライド・教材をわかりやすくオリジナリティの高いものに改良したいです。「聞きやすい話し方」（3.5 / 4.1）は 0.6 ポイント以上下回っているため、聞きやすいしゃべり方を心がけたいです。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	生理学Ⅱ				
担 当 者	堀江 修				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	3.8	3.9	3.9	4	
学生へのメッセージ					
授業評価をいただきありがとうございます。Ⅰ学生自身（3.6 / 3.6：当科目平均 / 学科平均とする）、Ⅱ授業内容（3.8 / 4.1）およびⅢ授業方法（3.9 / 4.1）、Ⅳ学習成果（3.9 / 4.1）およびⅤ総合評価（4.0 / 4.2）のように、学科平均を少しずつ下回りました。今年度の大きな特徴は、学生自身の項目で学科平均と同等のポイントが得られたことで、専門基礎科目でありながら自分自身でよく勉強してくれたことにあります。今までこのようなことはなかったです。今後はさらに取り組みやすい課題を出題するようにします。「聞きやすい話し方」（3.5 / 4.1）は0.6ポイント以上下回っているなので、ここを最優先に改善したいです。総合評価は今まで学科平均を上回ったことはありませんが、0.2ポイント以上下回ったこともありません。極端に評価が低いところを修正して、平均以上の授業に改善したいです。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	検体採取安全管理演習				
担 当 者	今西麻樹子 他				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.2	4.3	4.3	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
2015年に臨床検査技師の業務範囲に一定の検体採取が追加されました。厚生労働大臣指定講習会を受講し実施可能となりましたが、実際のところ、臨床検査技師が検体採取（鼻腔に綿棒を挿入して鼻咽頭ぬぐい液を採取）を担当することはあまりなかったと思います。しかし、2020年に新型コロナウイルス感染症による爆発的な流行が起こったことで、その状況は大きく変化し、現在では臨床検査技師がインフルエンザや新型コロナウイルスによる感染確認のための鼻咽頭ぬぐい液採取を行っている病院が増えています。 2021年には臨床検査技師が実施可能な検体採取として、①医療用吸引器を用いて鼻腔、口腔又は気管カニューレから喀痰を採取する行為、②内視鏡用生検鉗子を用いて消化管の病変部位の組織の一部を採取する行為が追加されました(検体採取以外での追加もあります)。皆さんは、令和6年度の前期中に大学で厚生労働大臣指定講習会を受講してもらいます。味覚・嗅覚や鼻咽頭ぬぐい液採取の演習と同様、しかり演習に取り組んでください。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2, 3		
科 目 名	生理機能検査学Ⅲ				
担 当 者	松田 正文				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.3	2.7	3	2.9	2.9	
学生へのメッセージ					
思考を巡らして考えて考えて考えて、暗記に頼らず、学修してください。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	ロボティクス演習				
担 当 者	関 雅幸				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.9	4.5	4.3	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
学生による授業評価調査は「板書、スライド、教材などの使い方は適切だった。」や「授業の進行速度は適切だった。」等の事柄に対してやや課題が残るという結果になりました。レポートにはいろんな皆さんの工夫の様子を書いてもらいました。次年度は、また M 科の卒業研究を担当する予定です。今回のロボット作成での問題解決が 4 年生での卒業研究や就職後の業務に取り組むためのいいトレーニングの場になったと振り返ってもらえたら幸いです。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	医療工学実習				
担 当 者	関 雅幸				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.3	3.8	4.1	4	4.1	
学生へのメッセージ					
学生による授業評価調査は「授業はわかりやすい内容であった。」や「授業は知的関心や好奇心を起こす内容であった。」という事柄に対して課題が残る結果となりました。"回路図をいきなり読むのは難しく感じた。"という趣旨のコメントがありました。初めて行うことを難しいと感じるのは自然です。どのタイミングで見た回路図についてのコメントなのかはわかりませんが、第1回目については実習書をそこで渡すので仕方ありませんが、それ以降は実習を行う前にある程度予習ができますので、ちゃんと準備をしましょう。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	溝越祐志, 伊藤洋志, 山本佐知雄				
担 当 者	基礎分析実習				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.2	4.6	4.7	4.5	4.7	
学生へのメッセージ					
実習お疲れ様でした。器具の使用方法など基礎的な手技を行う実習で、退屈な面もあったとおもいますが、レポート作成含めて皆様よく頑張っていたと感じています。実験器具の使用方法は基本になる場所ですので、少しでも行ったことを覚えていただければと思います。 さて授業評価の結果ですが、皆様からいただいた改善のコメントとそれに対する来年度の対策を書いておきます。コメントを書きくださった皆様、とても貴重なご意見ありがとうございました。教員としては、改善コメントが一番参考になりますし、有難いことですので、ぜひ次年度に生かしていきたいと思っています。 改善すべきと思った点 ・実験器具が足りず、順番に使うための待ち時間があったこと。 →実験器具についてはどうしても制約がありますが、来年度は可能な実験器具は増やし、待ち時間を減らすように努めていきたいと思っています。また、実習室を2号館2階に移すことができるようになりましたので、実習室環境としては改善され、後輩は今年よりも実習がしやすくなると感じています。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科		学 年	2	
科 目 名	免疫検査学				
担 当 者	鈴木 柝倉 赤澤				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.2	3.8	3.7	3.7	3.8	
学生へのメッセージ					
本授業評価のおかげで、授業の改善点がわかりました。ありがとうございました。プリント等をスクリーンに映す際に問題がないかの確認をしっかりと行いたいと思います。 免疫検査学は免疫検査の原理と疾患との関連を勉強するものです。そのため専門的な話も出てきましたが、皆さんの試験結果をみると、本講義での内容の理解はある程度進んだと思います。本講義は3人の教員によるオムニバス形式ですので、いろいろな切り口で免疫検査学の内容を勉強することで、理解が深まってくれたのではないかと期待しております。しかし、知識を完全に皆さんのものとして定着させるには、どうしても授業だけでは十分と言えず、皆さん自身が主体的に勉強していく必要があります。 これからは、免疫検査学の中で興味を持った分野あったら、自主的に図書館などで文献を探して、さらに発展的な勉強をしていってもらいたいと考えます。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	分子感染制御学演習				
担 当 者	鈴木 柝倉 溝越				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.4	4.8	4.9	4.9	4.8	
学生へのメッセージ					
分子感染制御学演習は実際の研究活動の一端を学生の皆さんと共に行うことを目的としています。皆さんの本授業への評価をみると、上記目的はほぼ達成されたのではないかと思います。これは皆さんが本演習授業に主体的な参加し、学修してくれたからだと思います。皆さんがこの演習授業で体得した様々なことを、これからの大学での学びに活かしていってもらえれば、ありがたいと考えます。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	バイオインフォマティクス				
担 当 者	鈴木高史				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.1	4.3	4.4	4.2	4.5	
学生へのメッセージ					
本授業評価のおかげで、授業の改善点がわかりました。ありがとうございました。進度・内容に関しては、今回の授業で概ね問題ないということがわかりましたが、今後、授業外の学修時間を確保するようにしていきたいと思います。 バイオインフォマティクス解析技術は近年の急激な進展により、ウェットの実験室解析を進める上で、なくてはならない技術・知識となってきました。授業で学修した内容を基礎として、これからも主体的に勉強を進めていってください。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	薬理学				
担 当 者	前田育宏				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.1	3.8	3.8	3.8	3.8	
学生へのメッセージ					
ボリュームが多く、急ぎ足で講義を進めたため、理解不足な部分もあるかもしれないが、薬理学というものがどういうものを理解してもらえれば、幸いである。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	薬物と検査				
担 当 者	前田育宏				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.2	4.2	4.3	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
日々行われる臨床検査においては患者は種々の薬を服用しており、それらが検査結果に影響を及ぼすということを理解してもらえれば幸いである。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	輸血・移植検査学実習				
担 当 者	押田 眞知子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.1	4.1	4.0	4.3	4.2	
学生へのメッセージ					
実習内容をより理解できるように、前期の講義内容に短時間でも目を通しておいてください。 また、不明点はその場で積極的に質問し、その日に行った検査方法、結果の解釈について理解できるようにしてください。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	労働衛生学Ⅰ				
担 当 者	澤井正治				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.0	3.7	3.7	3.8	3.8	
学生へのメッセージ					
この授業で良いと思った点を見ると、『質問すると、丁寧に教えてくださった』でした。経験から言うと、本科目に対して真摯に学ぶ気持ちの高い人は、良い成績を上げるし、良いことを書く様です。今後も質問に対しては、丁寧に対応するつもりです。また、この授業で改善すべきと思った点を見ると、『提出物の基準を生徒の提出物とするのはおかしいと思います。正当な基準を設け、評価して頂きたいです』でした。・医療に携わる仕事に就こうと決めた経緯、資格取得後に勤めた場合、目標としてどのようなことがしたいか、また将来どのような医療人になりたいか、などをレポートで提出してもらったことだと思いますが、全員提出を強要した訳ではなく、書いて提出できる人に限定しました。よって、次年度も受けた場合には、同じ内容のレポート提出を依頼するかどうかは未だ分かりませんが、似た内容の場合には同様に強制ではない提出にしたいと思います。					